



# かわいらしいいたらありやしない

学校に勤務していると、保護者や地域の方からご意見をいただくことが少なくありません。その中には、明らかに学校の対応がよくない事案がある一方で、学校側の真意が伝わっていない事案もあります。どちらにしても私たちにあって、受け止めの苦しみがあることは否定できません。しかし、前者と後者では受け止めの苦しみが少々違います。学校の対応が良くなかった事案の場合、「教師としてなぜ適切な指導ができなかったのだろう」という内省の苦しみがあります。もう一方の教師（学校側）の真意が伝わっていない事案の場合は、内省の苦しみに加えて、「一生懸命にやっていたのだけど、なんでこうなったのだろう」という若干のやるせなさや混じった苦しみです。ただ、一生懸命が伝わらないのはどんな仕事にもあることでしょう。思いが伝わって保護者や地域の方とわかり合えた時は、それまでの苦しさやショックを補って余りある喜びがあります。そして、それは私たちの財産になります。それに、クヨクヨしても日々美しい目で我々を見つめる子どもたちが目の前に待っています。歯を食いしばってやらねばならぬ、やるしかないのです。これは、どんな仕事でも同じことです。

学校が保護者や地域からご意見をいただく内容として、子どもたちのあいさつがあります。もちろん、あいさつがとてもいい！とのご意見をいただくこともあります。しばしばできてくれないと言われるときがあります。

毎朝校門に立ちますが、子どもたちのあいさつは「している」「していない」の二択では答えられません。あいさつは朝に限ったことではなく、終日行うことだからです。強いて言えば「状況による」でしょうか。

毎度お伝えしていることですが、登校時よりも下校時が断然あいさつします。「さよならあ！」と言うはずが、勢い余ってつい登校時の癖で「おはようございます！」と言ってしまう子も珍しくありません。週初めの朝よりも週末の朝の方があいさつします。また、登校時であってもその日に何か楽しみがあるときは、よくあいさつしてくれます。先週は、月曜日にリンゴ狩りに行った三年生、木曜日に通潤橋に行った四年生は、それが顕著でした。満面の笑みでスキップしたり、キャッキヤ言いながら登校してくる様子は、誰が見ても今日は何かいなこと

あるんだろうなと感じさせるものでした。「今日どこに行くでしょう？」「今日ね、お弁当に唐揚げ入ってる！」などと、うれしさを人と分かち合いたくて、誰かに言いたくてたまらない子どもも少なくありません。私は知ってるくせに「エー？どこ行くの？」とか返したり、「一個ちょうだい！」と言っただけで困らせたり（優しいから本気で唐揚げをくれようとはします。へたなことを言うものではありませんね）、もうかわいらしいいたらありやしない！…のです。

とにかく、子どもたちはあいさつする力があります。状況によるというのは、恥ずかしかったり、気分的に嫌なときはしなかったりする傾向があるということです。

それがつまりできないということなのだと言われたらそれも一理ですが、社会性の未熟さ故に、気分が乗らないときや気分が沈む月曜朝だからこそ、積極的にあいさつをしよう、恥ずかしくてもあいさつをしなきゃなどと考える子どもは高学年でも少数です。そうした社会性を獲得するには、経験の積み重ねが必要だと思えます。中学生からはあんまりあいさつが返ってきませんが、現に高校生以上になると、こちらがすればほとんどの子は返してくれます。（校門に立っている時です）ともかく、子どもがあいさつして気持ちがいいな、よかったなと思えるように、これからも指導していきます。

とはいえ、あいさつして無視に近い状況だとムツとくるのはよくわかります。ただ、悪意を持って無視することはないと断言できます。だから、大人はあいさつの返しを期待せず、いつもニコリ笑って「おはよう！」と目を見て言い続けることが大事ではないのかなと思います。日々あいさつして、時に話しかけて顔なじみになると、あいさつだけでなくいろいろなお話をしてくれるのではないのでしょうか。唐揚げもくれるかもしれません。



何てことのない3年生の後ろ姿ですが、ものすごいウキウキ感が私には伝わってきていました。大事そうにリンゴを三つ抱え、ニコニコして戻ってきました。